

一般社団法人 関西常磐津協会 機関誌

# 第47号

〒542-0072 大阪市中央区高津 2-8-10 末広ビル 502 号室  
Tel(06)6214-0753 Fax(06)6214-0755



## 常磐津

## 美佐季

## 師にきく

—父操太夫師の思い出と  
常磐津の未来を見据えて—



常磐津美佐季みさすえ師は、昭和13年生まれ。先年、常磐津文字宏香師、常磐津小清師が亡くなられ、関西在住の女流としては現在、唯一の重要無形文化財(総合指定)保持者です。舞台や放送出演のみならず、多くの後進を育てる役目をまっとうすべく、お稽古にも忙しい日々を送っております。

数々の芸談を取材するため、6月某日、京都祇園の稽古場(お茶屋「吉うた」さん)に、都代太夫と若音太夫が訪問いたしました。

(編集 若音太夫)

—昨年(平成28年11月)、歌舞伎の立語りの第一人者だった、東京の常磐津勘寿太夫師(昭和

9年生まれ)が亡くられました。美佐季師の父の常磐津操太夫師(明治22〜昭和44)は、勘寿太夫師の父の常磐津勘右衛門師(9世岸沢式佐、明治25〜昭和54)とご兄弟で、大正末期に調正会(常磐津正派とも)を創始され大活躍されたと伺っています。その流れを受け継ぐ演奏家は、今や美佐季お師匠さんお一人と聞いていいのでしょうか？

岸沢家元(7世古式部)に跡継ぎがなかった頃(明治末)、父に岸沢家を継ぐ話があり、次女の光子さんの習になって岸沢を継いだのですが、岸沢は三味線の家。



初舞台から間もない頃の美佐季師(左端)。昭和21年(8歳頃)、稽古場の京都常楽寺にて。三味線は操太夫師・母の美佐枝師ほか。

### 第七十七回

### 常磐津節公演会

江戸より受け継ぐ伝統のひびき

日時 平成29年9月30日(土)

午後2時開演予定

場所 国立文楽劇場小ホール

出演 当協会正会員24名

演目 「妹背山婦女庭訓」より

願系縁亭環

鱧七上使の段

姫戻の段

竹に雀の段

金殿の段

ほか



### ときわづカルチャー二期生募集集中!

- 内容** 浄瑠璃と三味線の実技
- 場所** 協会事務所(国立文楽劇場東隣)
- 期間** 二期生は平成31年3月まで
- 時間帯** 要相談(月2〜3回)
- 受講料** 無料

お申し込み・お問い合わせは  
協会事務所・常磐津綱男(担当理事)まで

TEL:06-6214-0753 FAX:06-6214-0755  
Eメール:info@kansai-tokiwazu.com

(操太夫師は一時、佐吉の名で三味線方も勤めたが)「自分は三味線は下手で桶を叩くようやから」と言つて、三味線のうまい弟の勘右衛門さんが、岸沢家元に入ることになったと聞いてます。光子さんが関東大震災で亡くなられ、古式部さんに男子(10世式佐)ができて成長されたので、遠慮して父の兄弟が(大正末期に)岸沢家から離れることになりました。

私のほうの流紋は菱木瓜です。蛸足の見台も肩衣もたくさんあつたんやけど阪神大震災で痛んで、ほかしてしまつたんですわ。見台いうたらね、法界坊の時だつたか、六代目さん(尾上菊五郎)が父を楽屋へ呼んで「すまないけどね、茹で蛸(赤い見台)でなくつて生きた蛸にしとくれよ」と一言。父が悩んで考えてね、黒い蛸足の見台を誂



しばしば稽古と温習会で来訪した九州若松にて。職分でデビューする以前、無本で「婦系図」を語る十代の美佐季師(左から二人目)。

えて舞台へ持つていったら、六代目が「わかつてくれたか!」って喜ばはつたつて聞いてます。

——六代目と操太夫師の関係を番付で調べたら、大正14年からしばらくの間は、9世式佐(勘右衛門)師、下の弟の勝蔵師の三味線で、松尾太夫・文字兵衛師よりも頻繁に勤めていらつしやいます。

六代目とのやりとりのことは、父からいつばい聞いてますわ。常磐津に關係ない踊りの工夫なんかのこともね。

——調正会は、昭和15年に岸沢家元と和解されて、以後は各派と融和をはかつてこられました。操太夫師のお弟子さんやお稽古に出入りされた方はたくさんいらつしやると思ひますが、どんな方がおられましたか?

よく覚えてますのは紫光太夫さん、三枚目のええ声の人でね。それから喜美太夫さん、三春太夫さん。端唄の藤本さん(初代家元の琇丈師)もね。その御縁で私もテイチクに入つて藤本の名前でレコード出したり。小由太夫さんのお父さんの文五郎さんも、元は勘右衛門のお弟子で、名取式のときもよく手伝いに来てもらいました。名取式は父と勘右衛門さんとで生玉神社の生玉御殿でよくやりました。二人で密室にこもつて秘伝の文句を厳かに伝授するんですわ。

——操太夫師は、どのような演目を得意とされてましたか? SP盤の「鞆猿」を聞いたら、写実的でとくに泣きの様子など。協会の公演会の稽古前に「三世相墮地獄」で噺家をなさつて録音をお借りしましたが、やはり軽妙な写実味が素晴



15歳頃の美佐季師

らしかったです。

「鞆」は若い頃は写実に過ぎたけど、年を取つてからは落ち着いて、もつとええ感じよ(笑)。「墮地獄」は天下一品やねえ。珍しいのでは「赤垣源蔵」(義士銘々伝)。「忠臣蔵」なら二段目の本蔵とか、それから「関の扉」「宗清」、大きいものがよかつたし、「尻橋」は放送でお囃子を入れたことも。「釣女」も好きでした。世話ものなら「久八」。「乗合船」の通人は、あれだけやれる人はいなかつた。内輪着めやけど(笑)。こしらえた物もたくさんあつて、「瞼の母」なんか私は教えてもらつてなくて残つてないから、もつたないわね。

——操太夫師から受けたお稽古はどんな様子で、今でもどのようなことを大切になさつてますか?

小さい時から父に手ほどきを受けて、中学卒業後すぐに大江美智子さんのお芝居で「将門」の三枚目に出るので職分になつて、そのあとは一切お稽古してもらつてないの。三味線の弾き方をほんの少し習つたぐらい。だから全部、どんなもんでも聞き覚え。急に「ちよつと、やつてみ」と言われてできないと、めつちや怒られる。そ

やから、用事してても何してても、聞き耳を立ててました。ほんまに仕込むといふか厳しいもんでした。そうやつて体に詰め込んだから、ずつと覚えてるんですね。私は今でも弟子にお稽古をつけるときに、三味線の譜も、本(歌詞)もほとんど見ません。今になってみればありがたかつたなあと思ひます。

あとね、「ラジオのドラマをお聞きよ」つてよく言われました。ラジオだから何も見えないけど、どういう距離で何を語つてるか、よくわかるつて。立つて言う時、座つて言う時、近くの人に言う時、向こうの人に言う時、全部変えなアカン。克明には教えてくれなかつたけど良いヒントでした。例えば、扉をガラガラ(低い声で)「こんにちは」なら長屋だよ、(高い声で遠くへ)「こんにちは」ならお屋敷だよ、みたいなね。

セリフでもフシを歌うのでも、言葉とあらずじからいろいろ想像して、その声柄なり声の強弱を考えてと、父にはよう言われました。私の弟子への稽古でもそう言うてますし、どういう場面かよく考えて感情を入れて、と申つてます。



今回、特選の一枚!

例えば「戻橋」なんかの「遠く」なら、他のかたは（下から）「とおく」やけどウチのほうは（遠くを眺めるような上ずつた入りかたで）「とおおく」とかね。父はそういうことを自分で研究しろつてね。

でも（その反動で）、フシが違う違うつてみんなに言われて。父が異端児とか言われたのもそういうことだね。中学を卒業してからパツと放されて（父以外の人と仕事をするようになつて）、それはそれは相当苦勞して、死を考えるほど辛い思いもしました。でも、他の色々なフシを覚えて、それにあわせてパツとフシを使い分けることも身につけてね。父のフシがすべてではないし、よその良い所もいただいでるけど、やっぱり父の良いフシは大切にしたいわね。関西で私一人だけ常磐津の岸沢派やけど、これまで皆さんと一緒させて貰つてお認めいただいて、ありがたいことですね。

——苦勞といえ、女性ならではの難儀はありましたか？

文之助さん（都瓦蔵理事長の父）はじめ、お師匠様が可愛がつて使つてくださつてね、常磐津の会でも舞踊会でも、よくお世話になりました。小欣司さんや三蔵さんの新作で、男の人より女が合うもの、男の人では常磐津が丸出しになつてあわない、そういう曲でよく使つてもらいました。

——ほかのお弟子さんの稽古はどんな様子でしたか？

父は職分の弟子にはもちろん厳しいから、皆さん自主トレが欠かせませんでした。お客さん（客分の弟子）には親切やけどね、熱心がすぎて、一人に対して2

時間もかけることもあつてね、趣味でやつてるお弟子やから「もうこの辺で結構でございませう」と申し上げますでしょ。そして「俺の稽古が気に入らなかつたら、もう来なくていいよ」。こんな調子やから困るでしょ。一徹というか芸一筋で、ほんまに芸人やつたと思います。

——お弟子といえ、何度も渡航された満州でも弟子を育てて会もされたそうですね。そのほか、特に思い出深いことは？

戦争中に慰問の団長をして、みんなを



大阪松坂屋ホールの舞踊会にて。右から、文字作師、美佐季師、小清師。

満州へ連れて行つてね。そしたら大連で、「お前はあんま声だ」（悪い声）と言われて。発奮して、血が出るほど毎朝声を出してね。亡くなる前、病院に入る前まで毎朝、「三保の松」全段を4本の調子（高音域）で、「松島」のカン「旅寝の日さえ」（高音の旋律）を3回。「俺は鳥の首しめたような声だからな」いうて窓開けて青空に向かつて（笑）。お父さん、そんなしたらアカン」言うても聞く耳もたずで。近所から苦情が来るから、転々と引つ越しましたわ。

父は昔から、前へ前へ、先へ先へ、と気が進んで、考えが新し過ぎて、時代や周りの人に合わないんですよ。だから流行らなかつたり、みんなから非難受けてね。普段でも、「オレは着物きてても靴がはきたいよ」とかね、ちよつと変わつてるんですわ（笑）。とにかく悪気がなくて単純なええ人で、なんでも気前よく引き受けるから、あとで困つて。お金のことも大きつぱ。...

——「着物に靴」は今や卒業式で大人気ですから相当、先を行かれてますね。ところで操太夫師のご趣味などは？

そやね、常磐津が趣味ですわ。麻雀は時々したけど昔はみんな付き合いでね。父が麻雀で夜遅くなつて文之助さんの家に泊めてもらつた時、文之助さんが奥さんの操さん（常磐津文操師）を「おい、操、操」つて呼んだのを父が勘違いして、「甲高い早口で」「はい、はい、はい」と返事をして。一つの笑い話になるほどでした。

——まだまだお話は尽きませんが、最後にメッセージをお願いします。

昔と今と時代が違うから難しいけど、若い人にもつと高い意識と強い意欲を持つて、自分の稽古を磨いて、本当の芸を目指して欲しいですね。常磐津の会をするのでも、ひと工夫が欲しいわ。全然知らない人に興味を持ってもらえるように。そやないと聞いてもらえないです、消えるわ。古典の良いのも大切やけど。若手が新作を作つて取り組むとか。



スカタン会（天地会）での「乗合船」。操太夫師（通人）、吾妻太夫師（大工）、花文字師（金時）、一巴太夫師（左の女形）ほか。

私は子供の頃は逃げ回りたいぐらい常磐津が嫌いでした。友達に揶揄されるのでね。成人してから目覚めて、一心不乱にやってきました。自分なりの解釈で、ここはこう語ったら良いかなって考えてると、ええか悪いかわからへんけど、どんだん楽しくなってくるのよね。

もうすぐ80歳になるんやけど、こうやってまだ、若い人ときあえるしね。ほんま、常磐津のお陰ですわ。長いこと常磐津を続けられて感謝の気持ちで一杯です。常磐津の将来のことは、若い皆さま方、どうぞよろしくお願いいたします。

## 長浜曳山祭に 常磐津節が響く

(寄稿) 鈴木 志史里

平成29年4月1〜17日、滋賀県長浜市で長浜曳山祭が開催されました。四百有余年という長い祭の歴史のなかで、子ども狂言の地方(伴奏音楽)として初めて常磐津節が使われると聞き、4月16日の後宴狂言を拝見しに伺いました。

長浜曳山祭は昨年11月に全国32の「山・鉦・屋台行事」と共にユネスコ無形遺産に登録されました。さらに、長浜八幡宮御鎮座九百五十年(平成31年)を控える今年は、通年の出番山組だけでなく全13基が勢揃いするという、大変にぎやかで貴重な機会でした。

常磐津節の狂言を奉納されたのは、「本町組・春日山」。演目は「紅葉狩」。浄瑠璃は常磐津都代太夫さん、三味線は常磐津三之祐さん。振付は若柳勝也さんが担



当。「紅葉狩」は元々三方掛合ですが、今回は常磐津のみ。この日は、1回目が長浜文化芸術会館、午後と夜に駅近くの春日山の曳山蔵の前で上演されました。

子どもたちが演奏する「しゃぎり」の囃子に続いて登場したのは、小さな男の子。大人でも辟易するような長い口上をスラスラと語ります。驚きと、これから始まる舞台への期待で胸がワクワクします。

「豊かなる公の納むる長浜の 代々に伝うる御祭礼 八幡宮の曳山は 実に昇天の春日山 泰平願う奉納芸 一際目立つ俳優は 春花に勝る美少年 その形振りぞ尊けれ」(置浄瑠璃)。曲も振りも、普段の「紅葉狩」とは少し違い、春日山と子どもたちに合わせ、都代太夫さんが編曲されました。

常磐津連中二人は、山の後部にある楽屋スペース(写真・毛氈の内側)で演奏し、観客側から姿は見えませんでした。しかし、子どもたちの見事な演技と常磐津連中の音がびつたりと寄り添い、「動く美術館」とも言われる絢爛豪華な曳山が、より美しく彩られました。一人一人の見せ場が済む度に世話人の方々が御父兄から「良く出来ました!」と大向こうが掛かり拍手喝采。最終回は日没後ゆえ、舞台は一層魅惑的な

雰囲気を増します。「よいさーよいさー!」の掛け声と拍手と歓声が止みませんでした。公演後に、あらためて都代太夫さんにおうかがいしました。

稽古から公演まで長期にわたりお疲れ様でした。編曲のポイントは何?

できるだけ常磐津らしい手付や節付を使つて構成しました。約70分の原曲を半分以上に縮め、しかも内容を濃くしなければならぬので大変でした。試行錯誤して35分にまとめ、実際に子どもたちとやってみたら45分。更に10分のカットを…。置浄瑠璃に地域のことや祭りの様子を取り込み、全体もできるだけわかりやすく喜んで頂けるよう心掛けました。

子どもさん方に対して、どんなことを留意されましたか?

お子さんたち(役者)に、きつかけをわかりやすくするため、三之祐さんに、「掛け声はできるだけはつきりと、大きい声で掛けてね」とお願いしました。稽古の段階ではなかなかうまくいかない子もいましたが、みんなやる気に満ちていて感心しました。皆さん頑張られて、やり遂げてくれた



ので、とても嬉しかったです。

子どもさんの踊り場がたくさん作られていましたね。

役の付いているお子さんたち、5人全員の踊りの持ち場をいろいろ考えました。これがなかなか大変でした。全員子供ですし、年齢もキャリアも少しずつ違うし…。振付の勝也先生も、さぞ苦心されたと思います。

大雨の15日は、山の中が雨漏りしてずぶ濡れになったそうで大変でしたね。それにしても、春日山の若連中(世話人の皆様)と御父兄のバックアップ、応援も頼もしかったですね。

春日山の皆様には大変お世話になり感謝しております。実は今回、若連中筆頭を務められた野坂匡孝さんや他の役員の方が、まだ少年で役者として曳山の舞台に立っておられた頃に、僕が取材させていただき、「つどい」(平成十二年一月一日号)に記事を書いたんです。春日山のこと、小松市の子供歌舞伎フェスティバルのこと……。そんな経緯もあって感慨深い気持ちでいっぱいでした。あの頃の小さい子たちが大人になり、助け合いながら、歴史と伝統のあるお祭りを次の世代に引き継いでいく。僕も伝統芸能に携わる者として身の引き締まる思いでした。

長浜曳山祭の末永い継承とますますの  
ご発展を心より御祈念申し上げます。  
(三味線音楽愛好家)

## ◆ 協会だより ◆

### 活動記録(平成29年前期)

#### 協会

◆第5回定時社員総会  
平成29年6月8日(月) 13時30分  
大阪市立中央会館会議室  
事業報告・収支決算、事業計画、収支予算、役員改選等の議案を審議し承認を得ました。



◆第2回常磐津研修発表会

平成29・30年度の役員改選により選出された新理事は以下の6名です  
(理事長以外は五十音順)

常磐津 都毘藏 (理事長・企画)  
常磐津 一佐太夫 (企画)  
常磐津 小三郎 (会計)  
常磐津 小有喜 (企画)  
常磐津 綱 男 (事務局、渉外、ときわづカルチャー)  
常磐津 都代太夫 (機関紙)



◆ときわづカルチャー第一期  
平成28年4月から29年3月まで計24回の稽古を実施。担当講師は綱男理事。  
29年3月19日、理事長立ち合いのもと、受講生の演奏による成果発表と修了式を、協会事務所で開催しました。

平成29年3月29日(日) 午後2時30分  
大阪市立中央会館

「廓八景」 三之祐  
「松島」 三賀太夫・三之祐  
「うつぼ」 若音太夫  
「三ツ面子守」 亜香音  
「山姥」 巴松太夫  
「松の名所」 小有喜  
「かつを売り」 都代太夫(賛助出演)  
次世代の指導者を育成する研修会事業。  
正会員有志が月に一度、協会事務所で理事長に稽古を受け、その成果を発表しました。



#### 会 員

◆常磐津塚法要  
平成29年4月4日(月)正午  
大阪・寂光寺(江口の君堂)  
常磐津節のために尽力された先人の方の  
供養と協会員の親睦のための事業。

◆重要無形文化財常磐津節  
第2回伝承事業成果発表会  
(常磐津節保存会主催)  
平成29年2月2日(木) 午後2時  
京都芸術センター講堂

「常磐の老松」浄都代太夫・若音太夫・  
一男太夫、三都史・三之祐  
「地蔵の道行」浄一佐太夫・都代太夫・  
若音太夫・一男太夫、三都毘藏・  
都史・三之祐  
会長の常磐津文字太夫御家元の挨拶、  
竹内道敬氏の解説。

◆一般社団法人  
関西伝統芸能女流振興会の発足

伝統芸能の継承と振興及び伝統芸能界における女性の活躍と技芸の向上を目的として発足し、平成29年1月30日に法人化。主に舞台公演(後掲記事参照)を通じて女性の活躍を支援し、講演・ワークショップ等の企画・プロデュース、広報活動にも取り組まれるとのことで、期待が高まります。会報『麻の葉』(平成28年12月刊準備号、29年4月第1号)は、実演家や舞台を支える女性たちによる記事が満載です。  
(発起メンバー・役員)当協会正会員の常磐津美佐希こと向平(島)美希さんが代表理事(子供歌舞伎指導)、理事が森本加奈子さん(関西舞台株式会社)。

辻野美加さん（衣装方）・多田佳保里さん  
（株式会社ピーシーウエスト）、幹事が上  
山寛子さん（北川化粧）。（お問い合わせ先）  
dentougainou.womanwest@gmail.com

## 協会 web サイトを リニューアルしました

<http://www.kansai-tokiwazu.com/>

常磐津節に関する情報、当協会の事業  
内容、写真や図版が満載です。『つどい』  
もご覧いただけます。

担当理事：常磐津綱男

## これから（平成29年後期）

### 協会

◆第77回常磐津節公演会  
平成29年9月30日（土）  
国立文楽劇場小ホール  
（詳細は第1面に掲示）

◆ときわづカルチャー第二二期

常磐津節愛好者を増やし裾野を広げるた  
めの常磐津教室事業。対象は大学生と一  
般社会人で定員は8名、受講料無料、協  
会事務所にて講習。担当講師は綱男理事。  
今期は受講生が大幅に増えています。



## ときわづ

演奏発表会

日時 平成30年1月14日（日）

場所 国立文楽劇場小ホール

出演 当協会準会員・賛助会員  
正会員（助演）

### 会員

◆常磐津綱男ゆかた会

平成29年8月6日（日）午後1時〜

名古屋城本丸御殿孔雀の間

演目「松の名所」「将門」ほか

出演 常磐津綱男・常磐津綱鵬・常磐津綱実・  
遠藤肇ほか

◆関西伝統芸能女流振興会主催

第一回公演

平成29年12月2日（土）

国立文楽劇場小ホール

〈一部〉午後1時〜

舞踊・義太夫「万才」、長唄「鷺娘」、  
常磐津「山姥」、ワークショッ

〈二部〉午後4時半〜

義太夫「道行初音旅」、長唄「俄獅子」、  
常磐津「婦系図」、ワークショッ

出演 義太夫 豊澤住輔連中

常磐津 常磐津美佐季連中

長唄 杵屋勝欣次社中

◆重要無形文化財常磐津節  
第3回伝承事業成果発表会

平成30年2月1日（木）午後2時〜

京都芸術センター講堂

主催 常磐津節保存会、文化庁補助事業

「松島」浄都代太夫・若音太夫・一男太夫、  
三都史・三之祐

「八犬義士蒼勇猛」麓の段・富山の段

浄一佐太夫・都代太夫・若音太夫・一男

太夫、三都崑藏・都史・三之祐

指導 常磐津一佐太夫、常磐津都崑藏

主旨 保存会会員の指導を受けた伝承者

が研修の成果を発表すると同時に指導者

との合同演奏を通して、高度な伝統技能

を体験、習得していく。

## 会員異動

〈入会〉

賛助会員

日下富美（常磐津亜香音社中）

〈退会〉

準会員

常磐津都籥（常磐津都史社中）

常磐津都蓉香（同右）

常磐津都章（同右）

賛助会員

笹部美穂（常磐津都史社中）

辻村敦子（同右）

富田礼子（同右）

富永美佐江（同右）

長谷川裕子（同右）

日下薫（常磐津美佐季社中）

〈変更〉

\*賛助会員の畠美希（亜香音社中）が  
正会員 常磐津美佐希に変更

\*賛助会員の刈谷徹が準会員 常磐津巴  
瑠寿太夫（常磐津巴瑠幸太夫社中）に変更

## 編集後記

取材で大変お世話になりました美佐季師、  
ご寄稿いただいた鈴木様に、心より御礼  
申し上げます。掲載のように役員が改選  
され、新体制が発足しました。引き続き、  
機関誌を担当させていただきます。  
今後とも何卒よろしくお願いいたします。  
（都代太夫）



## 『つどい』に情報や原稿を お寄せ下さい！

会員の皆さまから、今後の催事予定、活動報  
告、ご寄稿・エッセイ等を、随時募集しています。  
次号（平成30年1月1日発行予定）掲載  
分は、11月20日（月）締切です。郵便物  
による原稿募集はいたしませんので、ご協力をお  
願いいたします。

提出先・お問い合わせ（若音太夫）  
メール [ytake2395@gmail.com](mailto:ytake2395@gmail.com)  
電話 070-5019-1183 fax 020-4623-4554